

Photo : Murayama Shinori



## ダイレクトなインターフェイスが次世代PCの常識になるか？ [ Cintiq ]

メーカー (株)ワコム

URL [tablet.wacom.co.jp](http://tablet.wacom.co.jp)

今や死語となった「WYSIWYG (= What You See Is What You Get)」というコトバ。ディスプレイ上で画像を操作し、結果がそのままプリントアウトされる……DTPの草創期にはそんな単純なことが驚きだったりした。ところで、そこで主役カッパを務めたのがマウスとディスプレイ。この両者の距離はここ数十年縮まらず、GUIにもさしたる改善は見られなかった。ところがここに来て大展開の予感。液晶の低価格化とともに、より広い層をターゲットにした情報機器開発に向けた新たなインターフェイスの提案が相次いでいる。その中でも注目されるのがタブレットの老舗ワコムのタッチパネルディスプレイ。このダイレクト操作感があたりまえになる日も近い!

(今泉 洋 / 武蔵野美術大学デザイン情報学科教授)



壁面から一家を見守る、情報ライフラインの元栓  
[ モジュール壁掛けパネルサーバー ]

メーカー 日立製作所 (コンセプトモデル)  
URL [www.hitachi.co.jp](http://www.hitachi.co.jp)

3年後の情報家電の姿を描くプロジェクトのプロトタイプ「ホームサーバー」。水道、電気など古典的ライフラインに元栓があるように、これは家庭における情報の元栓として機能するようだ。薄型で壁に掛けて使用される。情報機器とは思えない柔らかなフォルムだが、それぞれの円形モジュールにはCPU、ハードディスク、DVD-RAM、非接触ICカードリーダーが格納されている。また各家庭の仕様にあわせてカスタマイズも可能になっている。パソコンが個人の領域であるデスクに載せられるのとは対照的に、このサーバーは壁という家族共通のドメインに設置されるところがおもしろい。

(クワクポリョウタ / デバイスアーティスト)



駄菓子屋感覚のギミック？  
いや、これぞハイブリッド・リアリティー！  
[ エムスタ・コーダー ]

問い合わせ (株)エムスタ  
URL [www.m-sta.com](http://www.m-sta.com)

マスメディアとは違った質のコミュニケーションが可能な媒体として期待されているウェブ。だが昨今の様子はいわずもがな……。そんな状況で、コミュニティーサイトを運営しながら集まった会員をマーケティングに活用するなど、実直な事業展開を行ってきたエムスタが狙ったブレイクスルーがこの仕組み。セロファン状のカードを、専用ウェブサイトの画像の上にかざすと文字が浮かび上がり、この文字でプレゼントなどがもらえるという。「まるで子供だましの駄菓子屋感覚」というのは常識にとらわれた人の言うセリフ。ちょっとローテクだが、これこそまさに業界注目のハイブリッド・リアリティー (複合現実) 広告なのだ。

(今泉 洋)

硬派におすすめ、「忍者修行系」アイテム  
[ ノン印刷キーボード“これが打てるか!” ]

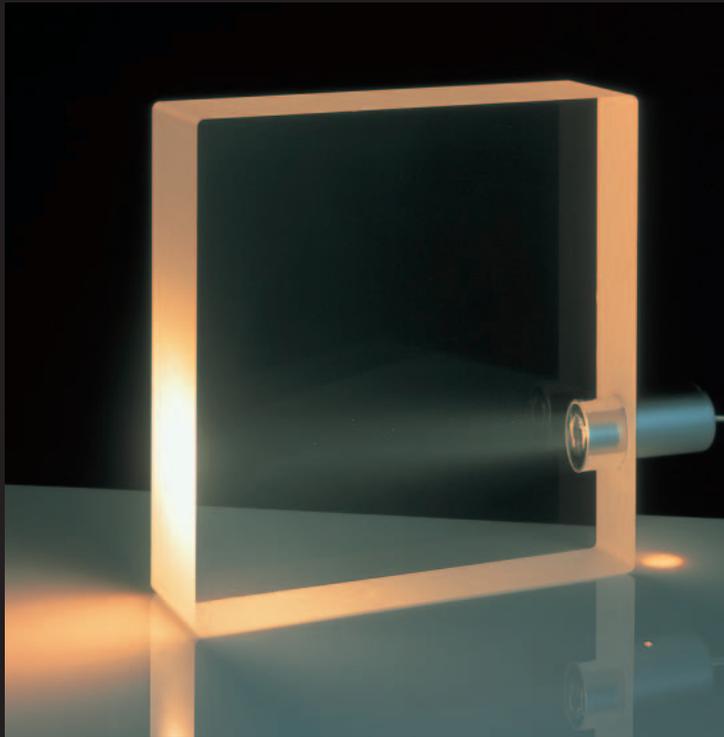
販売元 (株)センチュリー

URL [www.century.co.jp](http://www.century.co.jp)

真のタッチタイピングをマスターしたい人のために開発された無地キーボード。ご覧のようにキートップの刻印が一切ない。これではつい下をみて視覚を頼りにするようなインチキは通用しない。傑作なのは付属のキーボードカバーで、これにはキーに対応した文字が印刷されているが、使っているうちにかすれて消えるのだという。苗木を飛び越える忍者の修行を彷彿とさせる。  
(クワクポリョウタ)



PRO'S Products  
DECEMBER



照明を超えた、光そのものの存在感  
[ TōFU ]

メーカー ヤマギワ

URL [www.yamagiwa.co.jp](http://www.yamagiwa.co.jp)

「コンセプトは豆腐」という TōFU (トーフ) は、必要最小限の要素で構成されており、その形状もさることながら味わいもまた豆腐に似ている。横に差し込まれた光源から照射される光は透明樹脂のブロックの中で拡散し、ナシ地に仕上げられたエッジが明るく輝く。照明器具というよりは形を与えられた光そのものといった存在感だ。(クワクポリョウタ)



電子回路の曼荼羅絵、ここに復活!  
[ 復刻版電子ブロック "Nt-55" ]

メーカー 電子ブロック機器製造(株)

URL [www.denshiblock.co.jp](http://www.denshiblock.co.jp)

この玩具に見覚えのある方も多いのではないだろうか、これは「遊んで学べる」を地で行く伝説の電子玩具「電子ブロック」の復刻版。各ブロックには1つずつ電子部品が内蔵されている。それらのブロックを組み替えると、ラジオになったり豆球が点滅したりと色々な動作をする。遊んでいるうちに、電子回路は電子部品のつなぎ方次第でさまざまな働きをすることがわかってくる。すべてがブラックボックス化されている今日、その基本原理を知っておくことにはそれなりの意味があるのではないだろうか。(クワクポリョウタ)



自分の体型をネットで注文  
21世紀のパーソナル・トルソー  
[ d-torso<sup>®</sup> EVE\_original<sup>®</sup> ]

メーカー (有)アキ工作社  
URL [www.wtv.co.jp](http://www.wtv.co.jp)

スターともなると、スタイル管理に気をつかうのはあたりまえだが、さらに自分の体型のそっくりさんをやって、コスチューム作りに向かかせるとか。そこまでいかなくても、自分の体型そっくりのトルソー（胴体だけの彫像）を持つというのはハイクラスの常識、ハイライフの証とも言われる。しかし実際に自分のトルソーを作るのは……と二の足を踏んでいたオシャレな人向けにオンラインで注文できるトルソーが登場。身長とスリーサイズを入力するだけでオリジナルの段ボール製組み立て式ボディーを注文できる。問題は、体型に問題があってもオブジェとして見ると美しく見えてしまうので、ダイエットの助けにはなりそうもないところか？  
(今泉 洋)





インフラ充実をベースにポストPCを狙う  
高機能なダム端末  
[ Broadband Phone ]

開発元 AT&T Laboratories Cambridge  
URL [www.uk.research.att.com/bphone/](http://www.uk.research.att.com/bphone/)

ブロードバンド時代、「本当のメリットは帯域幅より常時接続であること」という話も聞かえてくる。そこで注目されるのが、古くて新しい永遠のサービス「電話」。なにせ、あのマイクロソフトも常勝アプリ「インスタントメッセージ」の新機能として電話機能をフィーチャーするくらいなのだから。さて、電話と言えばその老舗AT&Tが計画中なのがこの次世代電話。いたずらにインテリジェント化、PC化させるのではなく、広帯域をベースにした「高機能なダム端末」という語義矛盾な位置づけがミソ。世の中、「なんでもパソコンっぽく賢いのが良い」という風潮に、とりあえず「NO」を言ってみたいアマノジャクにはびつりの合理的な選択に違いない。  
(今泉 洋)



動きを読み取る赤外線的眼  
[ TrackIR BoxSet ]

メーカー Eye Control Technologies, Inc.  
URL [www.naturalpoint.com](http://www.naturalpoint.com)

これはマウスなどに代わる新しいポインティングデバイスのセットだ。ユーザーはおでこなどに小さな光反射シールを貼る。モニタ上部に設置したカメラは赤外線反射を読み取り、ユーザーの微妙な頭の動きを捉える。それによってポインターを自在に操れるというもの。一定時間アイコンに矢印を合わせることでもクリックも可能になっている(オプションの大型スイッチを使用することも可能)。バーチャル・キーボードと組み合わせれば、用途によってはほとんどの作業をハンズフリーで行える。

(クワクポリョウタ)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)